

- 12 それゆえ、見よ、その時代が来る——【主】のことば——。そのとき、わたしは彼に酒蔵の
番人たちを送る。彼らは彼を桶から移し、彼の桶を空にして、壺を砕く。
- 13 モアブは、ケモシュのゆえに恥を見る。イスラエルの家が、彼らが抛り頼むベテルのゆえに
恥を見たように。
- 14 どうして、おまえたちは言えるだろうか。 『われわれは勇士、戦いの豪の者だ』と。
- 15 モアブは荒らされ、その町々は襲われて、 選り抜きの若者たちが屠り場へ下って行く。
——その名を万軍の【主】という王のことば——
- 16 モアブの滅びは近づいた。 そのわざわいは速やかにやって来る。
- 17 周りの者、その名を知る者はみな、 これのために嘆け。 『どうして、力ある杖、
輝かしい笏が砕かれたのか』と。
- 18 ディボンに住む娘よ。 栄光の座から降りて、潤いのない地に座れ。 モアブを荒らす
者が、おまえのところに攻め上り、 おまえの要塞を滅ぼしたからだ。
- 19 アロエルに住む女よ。 道の傍らに立って見張れ。 逃げる男、逃れる女に尋ねて、
『何が起こったのか』と言え。
- 20 モアブは打ちのめされ、辱められた。 泣き叫び、わめけ。 アルノンで『モアブは
荒らされた』と告げよ。
- 21 さばきは次の平地に臨んだ。ホロン、ヤハツ、メファアテ、
- 22 ディボン、ネボ、ベテ・ディブラタイム、
- 23 キルヤタイム、ベテ・ガラム、ベテ・メオン
- 24 ケリヨテ、ボツラ、モアブの地の遠くの町、近くの町すべてに。
- 25 モアブの角は切り落とされ、 その腕は砕かれた——【主】のことば。

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会

2022年6月12日(日)

礼拝メッセージノート

「モアブ人へのさばき①～異邦人へのさばき③」

| エレミヤ書講解-86 エレミヤ書48:1~25 小野寺望 牧師

【エレミヤ書 48章】

- 1 モアブについて。イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる。 「わざわいだ、
ネボ。これは荒らされた。 キルヤタイムも辱められ、攻め取られた。 その砦は辱め
られ、打ちのめされた。
- 2 もはやモアブの誉れはない。 ヘシュボンは、これに悪事を企んでいる。 『行って、
あの国民を絶ち滅ぼし、 無き者にしよう』と。 マデメンよ、おまえも黙らされる。
剣がおまえの後を追っている。
- 3 ホロナイムから叫び声がある。 『暴行だ。大いなる破滅だ』と。
- 4 モアブは打ち破られる。 その幼き者たちは叫び声をあげる。
- 5 まことに、ルヒテの坂は嘆きの中にあり、 彼らは泣きながら上る。 ホロナイムの
下り坂では、 痛々しい破滅の叫びが聞こえる。
- 6 逃げて、自分自身を救え。 荒野の中の灌木のようになれ。
- 7 おまえは自分が作ったものと 財宝に抛り頼んだので、 おまえも捕らえられ、
ケモシュはその祭司や首長たちとともに、 捕囚となって出て行く。
- 8 荒らす者がすべての町に入って来る。 町は一つも逃れられない。 谷は滅び失せ、
平地は根絶やしにされる。 ——【主】がそう言われる——
- 9 モアブに翼を与えて、飛び去らせよ。 その町々は住む者もなく荒れ果てる。
- 10 【主】のみわざをおろそかにする者は、のろわれよ。その剣をとどめて血を流さないように
する者は、のろわれよ。
- 11 モアブは若いときから安らかであった。 彼はぶどう酒の澱の上によどみ、 桶から
桶へ空けられたこともなく、 捕囚として連れて行かれたこともなかった。 それゆえ、
その味はそのまま残り、 香りも変わらなかった。 (4ページへ続く)

◆はじめに ～高慢を拭い去り、主の御心を徹底しよう

1. 神から人間を引き離そうとする罪（箴6：16-17）

①それは謙遜とは真逆の状態。

*世の抵抗と戦いながら、忠実に務める ～米国福音派の出版社「アードマンズ」の墮落。

*神の規範を捨てるということは、世の高慢（罪）に加担することになる。

②一方で、国家や民族に対する最大の傲慢は、イスラエルに対する傲慢である。

*それはアブラハム契約の付帯条項に基づき、今日も機能している（歴史哲学）

2. モアブ人・アモン人・エドム人の共通点 ～アブラハム契約に近い民族

①皆がイスラエルに対する行為に応じて、報い（またはさばき）を受ける。

*彼らに対する預言は、完全な成就（千年王国）に向かって、現在進行中である。

②イスラエルに対し「御心を徹底」しない民は、「徹底する」民に滅ぼされた。

*東から来たアラブ系遊牧民もまた、イスラエルの近親的存在（イシュマエルの子孫）

◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

| 主の御心への徹底

*このメッセージは、人の愚かな傲慢を正し、主の御心を徹底するためのものである。



I モアブの危機の預言（1～10節）

1. モアブ崩壊の預言（1～9節）

(1) わざわいであり、辱められ取られる地

①ネボ（モーセが約束の地を見下ろしたネボ山ではない）

②キルヤタイム

③共通点： a.モアブ地域（死海の東岸）ではあるが、詳細は不明。

b.最初はルベン族の町（民32：37～38）で、後にモアブが制圧。

(2) 企みの首謀者

①ヘシュボン（シホンの国の首都）がそれを企んでいる。

②マデメンとホロナイムという町々から、悲鳴と嘆きの声上がる。

(3) 神からの警告と民の判断

①神はモアブ人たちに、敵から逃れるように勧告する。

②彼らは自分の手の業や財に依り頼んだ。

③その結果はむなしい。ケモシュ※も、祭司や首長、民と共に捕囚に引かれた。

※彼らが崇める偶像で、人身御供の習慣がある（1列11：7）

2. モアブを攻める敵への警告（10節）

(1) 神のみわざをおろそかにする者は、のろわれよ。

①これはモアブ人を攻撃する敵に向けられた神の警告

②【主】はイスラエルの民を苦しめたモアブ人を、別の異邦の民を用いてさばく。

③さばきを行う者は、徹底的にそれを実行しなければならない。

(2) その剣をとどめて血を流さないようにする者は、のろわれよ。

①その手を途中で緩めるならば、【主】からのろいを受ける。

※因みにモアブ人は東から来る遊牧民に滅ぼされる。エゼ25：10

II モアブのうぬぼれが砕かれる（11～17節）

1. モアブの平安とその副産物

(1) 「若い時から安らかで…」：モアブの歴史は比較的安泰であった。

(2) 「器から器へあけられたこともなく…」：ワイン作りの工程から副産物を論じる。

①意味：発行の過程でぶどう汁を器から器へ移さないと、沈殿物や不純物がたまってワインの質が落ちる。

②モアブの精神性は、純化されることなく、うぬぼれだけがその特徴として残った。

(3) 彼らは捕囚という厳しい現実を経験したことがない。

2. その時（さばきの時）が来る

(1) 彼らのうぬぼれが砕かれる日が近づいていると宣言する。

①その日、彼らはケモシュに信頼したことを恥じるようになる。

②それは、イスラエルの民がベテル（金の子牛の像が置かれた場所）に信頼したことを恥じたのと同様に。 1列12：26～30

(2) モアブが信頼を置いていた勇士たちも、モアブを崩壊から守ることはできない。

(3) エレミヤは周辺諸国に呼びかけ、モアブのために嘆けと語る。17節

①ディボン：アルノンの北、6.4km、死海から東方に20km。

②アロエル：古代のエモリ人の南境界線上にあった町。士11：26

③アルノン：モアブを流れる三支流から成る、死海に流れる川

III 破壊された町々のリスト

(1) これらはアルノン川以北の平地に存在した、モアブの代表的な都市。詳細は不明。

(2) ホロン、ヤハツ、メファアテ、ディボン、ネボ、ベテ・ディブラタイム、キルヤタイム、ベテ・ガルム、ベテ・メオン、ケリヨテ、ボツラ、

(3) 「角」は「腕」と同様に、力や兵力を表すたとえである。

◆まとめ：主の御心への徹底

1. それは神を愛し、神に目を向けることから始まる。

(1) 自分にのみ目を向けているときには生まれぬ感情

①それが悲しみであれば自己憐憫だし、不満は外への怒りに発する。

(2) へりくだり、感謝する者に、聖霊を通して豊かな恵みが注がれる。

①それが実践する力であり、不満を喜びに、不安を平安に変える。

2. 罪を日常的に行う者は、到底実践できない。

(1) 神様には、罪の性質をきよめる力があるという信仰を働かせる。

(2) 信じて、応答する者（傲慢の逆）は、すでに神に目を向けている。